滅失する危険性の高い貴重な樹木の後継樹のクローン増殖と里帰り

林木育種センター遺伝資源部：織部 雄一朗、弓野 奨、木川田 侑誠
林木育種センター北海道育種場：大塚 次郎、岩井 大岳、平田 慶至
林木育種センター東北育種場：竹田 宣明、小川 広大
林木育種センター関西育種場：柏木 学、千野 怜
林木育種センター九州育種場：大城 浩司、猪鼻 真由美

林木育種センターでは、衰弱した貴重な樹木の後継樹を増殖する「林木遺伝子銀行110番」を実施しています。2025（令和7）年度は13件の申請を受け入れ、これまでに増殖・育成してきた12件の後継樹を里帰りさせました。

林木遺伝子銀行110番とは

老齢などの理由で衰弱している天然記念物や巨樹、名木などを対象に、所有者等からの要請を受け、さし木やつぎ木などにより後継樹を増殖することで、滅失する危険性の高い貴重な樹木を後世に残す取り組みです。後継樹は母樹と全く同じ遺伝子を持つクローンで、元の地域に里帰りさせるとともに、林木育種センターで林木遺伝資源*として保存され、研究材料としても活用されています。

2025年度に受け入れた樹木

天然記念物に指定されている「試作場の桜」（北海道別海町指定）、「三誉の松」（青森市指定）、林野庁「森の巨人たち百選」の「杓子ヶ入メグスリノキ」（福島県喜多方市指定）、「余野公園の松」（三重県伊賀市指定）や、真正極楽寺（京都市）のハナノキ（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）など、13件の申請を受け入れました。

2025年度に里帰りした樹木

2025年度には、増殖に成功し植栽が可能な大きさにまで育った12件の後継樹を里帰りさせました。このうちのいくつかについて紹介します。

坂上田村麻呂と所縁がある岩手県紫波町の志賀理和気（しかりわけ）神社の御神木として大切にされてきた「千年杉」は、推定樹齢が約1,000年、胸高直径が1.8 m、樹高が35 mに達する巨大なスギでした。しかし、2007（平成19）年に北上川が氾濫した後、堤防を築くため神社が全面移転することになり、「千年杉」が伐倒されることとなり、神社から東北育種場に相談がありました。そこで、さし木により増殖したクローンのうち3本を後継樹として2025年6月に里帰りさせました。

兵庫県固有種のショウフクジザクラは、但馬地方から播磨北部で古くから地域に親しまれている、樹形が半しだれで株立ちする八重咲きの珍しい桜です。なかでも「御形（みかた）神社のショウフクジザクラ」は県内最大級で宍粟（しそう）市によって天然記念物に指定されています。しかし、病虫害で樹勢が徐々に衰えてきたため、御形神社からの要請を受け、つぎ木により増殖を行い、2025年の新嘗祭（にいなめさい）の日（11月23日）に後継樹2本を里帰りさせました。

専門用語

遺伝資源：成体、種子、花粉とDNAからなる生物資源とそれらに係る情報です。

参照文献・サイト

林木育種センタープレスリリース
https://www.ffpri.go.jp/ftbc/business/press/press.html





「千年杉」（左）と後継苗木（右）



御形神社のショウフクジザクラ（左）と後継苗木の引き渡し（右）

図1　2025年度に受け入れた樹木と里帰りした樹木の所在地（市区町）

千年杉と御形神社のショウフクジザクラの写真は所有者から提供されました。図は地理院地図Vectorの白地図を加工して作成しました（https://maps.gsi.go.jp/vector/#7/36.104611/140.084556/&ls=vblank&disp=1&d=l）。